



みわだのき・もち
Miwada-ism

ジャーナリズムは「物語」を創造するもの ～Everett Kennedy Brownさん講演会～

5月24日放課後、国際フォト・ジャーナリストであるエベレット・ブラウンさんによる講演会がおこなわれました。ブラウンさんは epa 通信社日本支局長、ブラウンズフィールド代表。1988年から日本に定住し、日本の雑誌や『タイム』『ニューズ・ウィーク』など、欧米の主要なメディアで作品を発表しています。2011年には官邸の依頼でダボス会議に日本の震災復興写真を展示したそうです。今回の演題は "Jounarism & Humanity"。ブラウンさんが写真を撮るようになった経緯や、世界を舞台とした活動を話してくださいました。



ブラウンさんは幼少期にご両親と一緒にいった旅行をきっかけに写真に興味を持つようになったとのこと。被写体が何であれ、被写体をよく理解し、正面から向き合って「対話」することが、その真実を切り取る手法であると語りました。

ブラウンさんは「ジャーナリズムは物語を創るもの」と定義し、参加した生徒たちに自分自身の「物語」を創造しようと呼びかけました。また、今後のグローバル社会においては、一つの専門知識しか持たないプロフェッショナルよりも、多くのことを広く浅く知っていることが求められると話しました。多くの知識を持つことで様々な人との対話が生まれ、そこから互いを知り合い、理解する契機ができます。実はこのことが、多くの国際問題を解決する糸口になるとのことです。

またブラウンさんは日本の文化や伝統についても触れ、日本の秘めた潜在能力を引き出すことで、日本は元気を取り戻すことができると話しました。参加した生徒たちは、豊かな伝統と文化をもとに、活気ある明るい未来の展望を描けたようです。

この講演会は英語科主催でおこなわれ、講演はすべて英語でしたが、ブラウンさんは聞き取りやすく丁寧に話してくださったので、参加した中学生にもよく理解できました。



講演終了後、応接室にて

中3・高2



修学旅行



修学旅行は中学3年と高校2年で実施される、重要な学校行事です。目的地は違っても、事前学習をしっかり積んだ上で、自分たちの目を見て、肌で感じるための旅行であることは同じです。ですから、三輪田の修学旅行は観光的要素はほとんどなく、本当の意味での「修学」旅行とすることができます。とはいえ、友だち同士寝食を共にし、自分たちで計画を立てて班行動をする経験は、ふだんの学校生活とは違い格別のもの。旅行から帰ってくると、学年の団結がより一層強まります。



中3 広島旅行

6月3日から6日まで、中学3年生は3泊4日の広島修学旅行に出かけました。道徳のテーマの一つとして、平和学習は中1の時からプログラムが組まれています。この旅行はその総仕上げとして位置付けられています。

初日は新幹線で広島へ。平和記念公園内の原爆の子の像を見学し、持参した千羽鶴を奉納しました。この像のモデルになった佐々木禎子さんのことは映画『千羽鶴』鑑賞で事前学習しています。生徒たちはこの像の前で手を合わせていました。この後、平和記念資料館を見学し、元館長の原田浩先生からお話を伺いました。自分たちがいるこの場所で起こった惨劇に、生徒たちは強い衝撃を受けていました。



原爆の子の像の前で

2日目は再び資料館を見学し、証言者の方からグループごとにお話を伺いました。被爆なさった方から直接お話を伺い、涙を浮かべる生徒も見られました。その後、平和公園の内外に散在する慰霊碑を巡ったり、爆心地を見学するなどして、改めて平和への祈りを捧げました。

3日目は証言者の方々のお話を全体で共有するための報告会を行い、午後から雨の中、宮島へ移動。厳島神社に参拝しまし



公園内外の碑巡り

た。海中に立つ鳥居やかわいい鹿たちに、広島での重い体験から少し解放されて、緊張がほぐれていったようでした。

最終日は広島へ戻り、広島城や広島美術館を見学。広島城にも戦争の跡が残っています。今回の旅行で、当たり前のように感じている現在の平和が、実は大変に「有り難い」ものであることを実感したようでした。



厳島神社



高2関西旅行



高校2年生は中3と同日に出発して、4泊5日の関西旅行へ。グローバル化が喧伝される現在、地球規模の同質化が起こる一方、それぞれの地域・民族の多様性を認め合うことも必要です。そのためには自国の文化や伝統をしっかりと知ること。中学生では味わえない、深い精神性を感じ取ってほしいということで、三輪田学園では高校で奈良・京都に出かけます。初日と2日目は奈良・多武



興福寺にて



昼食は重要文化財の講堂で
(唐招提寺)

峰泊。浄瑠璃寺から東大寺、興福寺など奈良市内の寺院を見学、翌日は飛鳥と長谷・室生の2コースに分かれて見学、午後から合流して法隆寺・中宮司・聖林寺へ。3日目はこの旅行のハイライトの一つ、唐招提寺の鑑真和上像の拝観です。この像はこの期間にしか拝観できない国宝。東山魁夷画伯の波濤の襖絵の中に、静かに座す鑑真和上の像を、熱心に拝観していました。この後、秋篠寺・平等院などを見

学して京都市内三条の宿へ。4日目は班別自由行動の日です。タクシーは使わず、自分たちで時刻表を見ながら立てた計画で行動しました。最終日は三尾・南山城・比叡山・鞍馬の4つのコースに分かれて見学。新幹線に乗る直前まで、初夏の古都で日本文化の深さを堪能しました。



平等院

6月下旬～7月の学校紹介イベント

要予約のイベント

…ご予約は学園HPで

- ★ オープンスクール (授業・クラブ体験) … 5, 6年生対象 (水泳クラブ体験は別日程)
6/28 (土) 14:00~16:00 **満員御礼・ご予約はお早めに!**
- ★ ミニ学校説明会…保護者対象、60名限定 10:00~11:30
7/1 (火) メインテーマ: 世界への興味関心を広げる語学教育
ミニ教育相談: 女の子が勉強が好きになるヒント

予約不要のイベント

- ★ ナイト説明会 7/4 (金) 18:30~19:50
※保護者によるパネルディスカッションがあります

6月2日から3週間の日程で、卒業生が教育実習生が来ています。理科小野田さん・英語科岡野さん、社会科浅利さん・安藤さん・小林さん、音楽科田中さん・大橋さん・松岡さんの計8名です。実習生の皆さんに、在校中の思い出や現在の教育実習のようすなどをインタビューしました。



まず、在学中の思い出で印象に残っているのは運動会・三輪田祭が圧倒的。音楽科の3人は校内音楽会が印象深い経験だったそうです。それぞれの人に力を発揮できる場があり、互いに支え合っ

て協力し合うのが三輪田の行事の特色です。この点、充分満喫できていたようです。社会科の安藤さんが教職課程をとったのは、教えることが人を変えると感じたから。また理科の小野田さんは「理科は伝えることが大切、研究や発見を正しく伝えたい」と話していました。実際に教壇に立っての感想を聞くと、社会科の浅利さんは「中学生と高校生では理解が全然違う。うまくできなかった部分をどう補うかが課題」とのこと。音楽の松岡さんは「同じ教案に沿って授業をしても、時間帯や状況などによって生徒の反応が違う」と驚きを語っていました。皆さん生徒を引きつけ集中させることの難しさを、改めて感じたようでした。教育実習期間はあと1週間。有為な時間になることでしょう。

H26

第2回理科の問題より

三輪田の入試問題インタビュー

(1) 図1のような豆電球とモーターのつなぎ方をなんといいますか。

(2) 図1のアの豆電球と同じ明るさになるものはどれですか。図中のイ〜クから一つ選んで、記号で答えなさい。

(3) 図1と図2のモーターのまわり方を比べるとどのようになりますか。次の(あ)〜(う)から正しいものを1つ選んで、記号で答えなさい。

- (あ) 図1の方が図2より速く回る。
- (い) 図1の方が図2よりおそく回る。
- (う) 同じ速さで回る。

(4) 図3のモーターの回転を手で止めるとオの豆電球はどのようになりますか。 次の(あ)〜(え)から正しいものを1つ選んで、記号で答えなさい。

- (あ) 点灯し続け、明るさも変わらない。
- (い) 点灯し続け、より明るくなる。
- (う) 点灯し続けるが暗くなる。
- (え) 点灯しなくなる。

図1

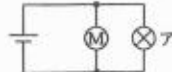


図2

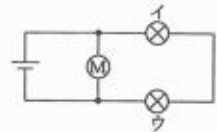


図3

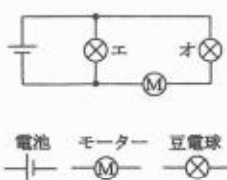
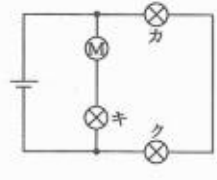


図4



答え：(1)並列つなぎ (2)エ (3)う (4)い